# 社会科授業における経済学習
## ー歴史的分野を例としてー

広島大学附属福山中・高等学校　　大江　和彦

中世という時代，生産においては分業・大量生産，流通においては，安全・迅速・確実をめざすサービス業が発生・発展した。つまり，生産・流通・消費の３つをあわせた経済の仕組みの急速な発展が社会構造の変化を生み出したのである。農民や独立した手工業者の生産品を誰が所得とし，誰がどこに運び消費するのか。モノと貨幣の流れを，それぞれの生産者やサービス提供者の立場から理解し，原始・古代の経済と比較して何がどう変わったのかを考察することを通じて，「中世の生産と流通」を学ぶ。つまり，現代日本の抱える経済的諸問題の分析を通じて，経済社会の変化と発展を考察し，未来の日本のあり方を考えるための前提として，日本の歴史の推移における経済の基本的な仕組みと特質をできるだけ長いスパンで理解できる授業を構成する。

### Ⅰ．現代日本の経済問題

近年，大学へ進学する際，経済学の道をを志す生徒が増えている。それはなぜだろうか。

保護者が勤める会社が経営不振であることを原因として，給料が減り，自分の小遣いが減ったとか，保護者が勤めていた会社のリストラに遭い，奨学金を得なければ大学進学も難しい，という厳しい経験をした生徒もいるであろうし，何となく経済学を勉強しておいた方が就職に有利であるらしいとか，漠然と興味があるしお金儲けができそうなどと思っている生徒もいるだろう。実にさまざまな理由が考えられるが，おそらく現在の日本経済の危機的状況を，肌身を以て感じている生徒が多くなっているからであると考えられる。危機は同時に，チャンスでもあり，「このような時代だから」こそ，経済学を学ぼうとするのであろう。

経済とは，広辞苑によると，「①国を治め人民を救うこと。経世済民。政治。②人間の共同生活の基礎をなす物質的財貨の生産・分配・消費の行為・過程，ならびにそれを通じて形成される人と人との社会的関係の総体」とある。言い換えれば，経済＝政治であると同時に，人間の共同生活は，経済の仕組みによって成立している，ともいえる。当然，国民全体が注目し，危機感を持っている現代日本の経済問題は，非常に複雑なシステムのもとで動いている。それを全て理解するのは非常に難しい。だが，現在の日本を覆っている深刻な不安感は，金融危機・デフレスパイラルなどさまざまな経済面の現象の総体としてとらえることができるし，さまざまな経済的現象は，人間の営みの結果であることもまた事実である。

### Ⅱ．社会科授業における経済学習

当校では，π型の社会科授業でカリキュラムが構成されているため，中学校で経済に関する理論的学習を行うのは３年生（２年後）となる。今回授業を行う１年生は，そういう意味で，暮らしの実体験に基づく経済論理しか学んでいないともいえる。つまり，政治と深く関係し，社会生活の基礎として重要な経済の仕組みと発展を，生徒は，意識しているとしていないとに関わらず，学問として体系的にではなく，生徒の日常生活における経験をもとにして知っているということである。しかし，過去の歴史をひもとき，過去の事実を歴史としてではなく，現在につながる１つの過程として認識することは，現代日本が抱える経済問題を将来的に経験し，直接的・間接的にでも解決していかなければならない生徒たちにとって，非常に重要であると考える。社会が複雑化し，本質的な問題を見つけにくい現代において，社会科という教科の果たす役割は大きいと考える。社会を構成する一員として，日本社会のあり方を考えるためには，公民的分野だけではなく，歴史的分野からも社会の変容・発展に関する経済的視点を学ぶ機会があることは，政治史的歴史観が支配的な今日において，重要なことである。

今回は，中学校社会科歴史的分野の授業において，経済社会の形成過程と基本的構造をいかに教材化するかをテーマに授業試案を提示する。

### Ⅲ．授業構成の論理

経済とは，生産と分配と消費の過程である。

生産とは，自然物に人力を加えて，人にとって有用な財をつくりだすことであり，分配とは，個々人が生産物

を社会的法則に従って分けることである。つまり，土地所有者は地代，資本家は利潤，労働者は労働賃金をというふうに，各人が生産に関わった割合に従ってその所得を手に入れることでもある。消費とは，欲望の直接・間接の充足のために財貨を消耗する行為であり，生産と表裏の関係をなす経済活動でもある。

経済社会を理解する上で，経済社会を構成する生産・分配・消費の各活動ごとに重要なポイントをあげると，次のようになる。

生産面では誰が(主体)，何を(生産物)，どのように(生産方法)，生産するのか。分配面では誰が(主体)，何を(分配対象)，どのように(分配方法)，分配するのか。消費面では誰が(主体)，何を(消費物)，どのように(消費方法)，消費するのか。「どれくらい」，や，「なぜ」などという疑問もあるが，ここでは上の文章を基本として授業構成の論理を探る。

周知のように，日本の歴史を概観すると，

1．原始（旧石器（先土器）時代，縄文時代）
2．古代（弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安時代）
3．中世（鎌倉・南北朝・室町・戦国時代）
4．近世（安土桃山・江戸時代）
5．近代（明治・大正・昭和20年まで）
6．現代（昭和20年から現在まで）

と時期区分をすることができる。これは，政権所在地等によって一般的な時代区分が行われているに過ぎないが，経済社会の変質という視点から時代区分をすると，次のようになると考えられる。この時代区分については，経済社会のどの面を重視するかよって，経済史の成果としてもさまざまな諸論があるが，政治的論理によって時代を理解させるのではなく，経済面の諸現象を人間の営みとして理解し，その結果生じた経済社会の変化を政治史的背景によって理解させるという教材構成の基本的方針を取りたいと考える。その際，中学校１年生という発達段階で実施するということを考慮し，極力難解な語句は避けることとした。

1　自然経済社会（原始～古代）
◎この社会の経済的特色
・生産…農民等が農作物等を生産する
・分配…農作物等は，農民と支配者に分配される
・消費…農民と支配者によって生活のために消費される
（第一次産業と第二次産業が中心の社会）

2　前期商品経済社会（中世前期～近世初め）
◎この社会の特色
・生産…農民が商品作物など農作物を生産する
手工業者が手工業製品を生産する
商人や金融業者や運送業者はｻｰﾋﾞｽを生産する
・分配…農作物や手工業製品は，それを必要とする人々に分配される
ｻｰﾋﾞｽは，それを必要とする人々に分配される
・消費…生産物は，それを必要とする人々によって生活や利便性のために消費される。
（第一次・二次産業に加え第三次産業が発達した時代）

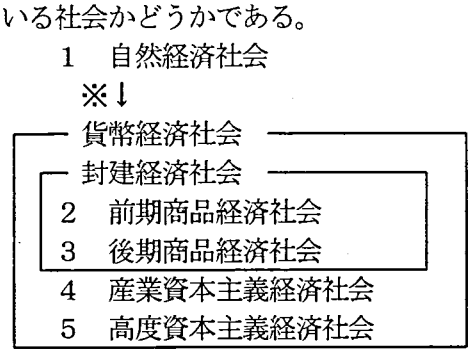
3　後期商品経済社会（近世（江戸時代））
◎この社会の特色
・生産…農民が商品作物など農作物を生産する
手工業者が手工業製品を生産する
商人や金融業者や運送業者はｻｰﾋﾞｽを生産する
・分配…農作物や手工業製品は，それを必要とする人々分配される。
ｻｰﾋﾞｽは，それを必要とする人々に分配される
・消費…生産物は，それを必要とする人々によって生活や利便性のために消費される。
（第一次・第二次産業のさらなる発達に伴い，第三次産業がより発達した時代）

4　産業資本主義経済社会(近代(明治～昭和二十年まで))
◎この社会の特色
・生産…農民が農作物を生産する
手工業者が手工業製品を生産する
商人や金融業者や運送業者はｻｰﾋﾞｽを生産する
労働者が労働力を生産する
※工業製品は，工場制機械工業により生産され，労働者の労働力が用いられた。
・分配…農作物や手工業製品は，それを必要とする人々に分配される
ｻｰﾋﾞｽは，それを必要とする人々に分配される
・消費…生産物は，それを必要とする人々によって生活や利便性のために消費される。
（政府の強力な指導の元で，第二次産業を中心に発達し，第三次産業が発達した時代）

5　高度資本主義経済社会（現代（昭和20年～現在））
◎この社会の特色
・生産…農民が農作物を生産する
手工業者が手工業製品を生産する
商人や金融業者や運送業者はｻｰﾋﾞｽを生産する
労働者が労働力を生産する
※工業製品は，工場制機械工業により生産され，労働者の労働力が用いられた。
・分配…農作物や手工業製品は，それを必要とする人々に分配される
ｻｰﾋﾞｽは，それを必要とする人々に分配される
・消費…生産物は，それを必要とする人々によって生活や利便性のために消費される。

（第二次産業を中心に発達し，第三次産業がより発達した時代）

以上のような経済社会の区分の上で，１の自然経済社会と２の封建経済社会以降の社会の大きな違いは，貨幣を用いる社会かどうかである。




今回の論文では，２以降の経済社会の特質を，貨幣経済社会と規定し，１の自然経済社会から２の封建経済社会へなぜ移行したのかについて考察させることとする。

いずれの時代の授業においても，どの社会のどの階層の人間にとっても，「できるだけ多くの収入を得たい」という基本的欲求があることを前提として授業を行う。

## Ⅳ．小単元「自然経済社会から貨幣経済社会へ」

①小単元名　自然経済から貨幣経済へ

②小単元の目的

現代日本の抱えている諸問題は，実に多い。地方分権・情報公開などの国内政治に関する問題のみならず，国際社会における日本の政治的役割を考える必要がある。また現在，日本は，「バブル経済」の時代を経て，先の見えない「平成大不況」のまっただ中にある。高度経済成長期を通じて現代日本の発展を大きな力で支えてきた経済は，今や現代日本が抱える，最も大きな克服すべき課題なのである。そこで，未来の日本のあり方を考えるために，現代日本の抱える経済的諸問題を分析する視点として，経済の仕組みと特質を知り，できるだけ長いスパンで社会の発展を考察する単元が必要であると考える。経済体制にかかわらず，どの時代の人間も「もっとたくさんの収入が欲しい」と考えていることを前提として，この単元では，自然経済社会の時代から，貨幣を交換の仲立ちとして使用するようになった貨幣経済の時代に入り，手工業者の独立に代表される第二次産業といわゆるサービス業などの第三次産業が発達し，当時の人々の自由な営みを通じて，より便利な社会が形成されていったことを理解する。その際，小単元１や３などで，政治的事件などの詳細な内容に深入りせず，大まかな時代の流れを理解させた上で，経済社会の成立を学習することによって，学習後の自学の手がかりを作ることを目的とする。

③小単元の構成

１．古代の政治社会　…１時間
２．自然経済社会とは何か　…１時間
３．中世の政治社会　…１時間
４．貨幣経済社会とは何か　…２時間（本時）

④本時の到達目標

（１）社会における貨幣の働きは，交換手段・価値蓄積・価値尺度としての機能がある。

①市場には，売りたい人と買いたい人が集まる。

②市場でモノを売りたい人は，全部売りたいという願いと，高く売りたいという願いを持っている。

③市場でモノを買いたい人は，いいモノを少しでも安く手に入れたいという願いを持っている。

④貨幣は，交換手段・蓄積対象・価値尺度の役割を持つ。

（２）貨幣経済の時代に入り，市が盛んに開かれるようになった背景には，貨幣経済の浸透と，第一次・第二次産業の発達がある。

①自然経済の時代には，基本的に現物が流通し，農民の生産物が農民・荘官・荘園領主の収入を支えていた。

②貨幣経済の時代には，貨幣が輸入され，流通した。

③第一次産業では，多肥多毛作がすすんで生産性が向上し，余剰生産物が増加した。

④第二次産業では，貨幣を獲得して生計を立てるために手工業製品を大量に効率よく作ることができるようになった。

⑤余剰生産物・手工業製品の増加が，市の活発化を招き，貨幣経済の浸透をさらに進めることとなった。

（３）貨幣経済の浸透と第一次・第二次産業の発達を背景として，商業・運送業・替銭業などの第三次産業が発達した。

①市は，モノと貨幣を交換する場所であるが，市でモノを購入する人の目的は，消費と転売の２つがある。

②商人は，モノを安く買い，市などで高く売り，差額を収入として生計を立てている。

③商人は，客がほしがるいいモノを安く提供するというサービスを提供して貨幣などの所得を得ている。

④運送業者はモノを，指定された場所へ，期日通りに，安全確実に運ぶというサービスを提供して貨幣などの所得を得ている。

⑤替銭業者は，代銭納の普及に伴い，より安全な送付方法として為替を発明・普及させ，これをサービスとして提供し，貨幣などの所得を得ている。

（４）貨幣経済社会は，現代社会における生産と流通のシステムの原型となっている。

①貨幣経済社会における生産ー消費関係は，自然経済

社会における農民・地頭・荘園領主の生産－消費関係に依存している。

②第一次産業と第二次産業の発達により余剰生産物が市場に放出され，生産と流通が活発化することによってサービス業が発達した。

③商人や運送業者や替銭屋は，社会で発生したニーズに対してサービスを提供し，所得を得ている。

授業構成案（第１時）

| 過程 | 発　問 | 教授・学習過程 | 資料 | 習得させたい知識 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|---|---|---|
| 導入<br>(15分) | ・「庭訓往来」の資料を読みましょう | T.資料配布 | ① | ・この資料は，「庭訓往来」といい，江戸時代の寺子屋用の教科書として使われたものである | |
| | ・自然との関係が深い産業を何というか(農業・林業・水産業など) | T.発問する | | ・第一次産業 | |
| | ・主にモノを加工する仕事を何というか(製造業・土木建築業など) | T.発問する | | ・第二次産業 | |
| | ・モノの売買や，保管・運送をする産業を何というか(商業・運輸・通信・金融業など) | T.発問する | | ・第三次産業 | |
| | ・第三次産業は，別名何業というか | T.発問する | | ・サービス業 | |
| | ・この資料に出てくる人々の，仕事の共通点は何か | T.発問する | | ・全てサービス業(第三次産業)である | |
| | ・彼らはいつごろ，どこで活躍したのだろう，地図で確認しよう | T.発問する | | ・14世紀半ばには，サービス業者が，都や近畿地方の都市に集住して活動していた | |
| | **◎中世に入り，なぜ，サービス業が盛んになったのか** | T.説明する | | | |
| (1)<br>(15分) | ○この資料は，13世紀のある市の様子を描いたものです | T.説明する | ② | ・福岡市(現在の岡山県長船氏) | |
| | ・市場に来る人の願いを通して，鎌倉時代以前と鎌倉時代以後の社会の変化の原因を考えよう | T.発問する<br>P.答える | | | |
| | ①反物をもった女性(A)はお金を持った男性に何を話しているのか | T.発問する | | ・「買って下さい…」，「どんな柄がお好み？」等 | |
| | ・Aはどんな重いで彼に話しかけているのか(Aの願いは何か) | P.考える | | ・少しでも高い値段で買って欲しい，持ってきた反物が全部売れないかな，など | 前時の宿題 |
| | <どうなるとAはうれしいか> | P.答える | | | |
| | ・彼はどんな思いでAの話を聞いているのか(彼の願いは何か) | T.発問する | | ・今持っているお金でできるだけ質の良い反物を多く手に入れたいな，など | |
| | <どうなると彼はうれしいか> | P.答える | | | |
| | ②枡で米を量っている男性(B)は，傍らの男性と何を話しているか | T.発問する | | ・「たくさん買ってちょうだい」，「100文で15kgだよ」等 | 自由に発表させる |
| | ・Bはどんな思いで彼に話しかけているのか(Bの願いは何か) | P.考える | | ・少しでも高い値段で買って欲しい，持ってきた米が全部売れないかな，等 | |
| | <どうなるとBはうれしいか> | P.答える | | | |
| | ・彼はどんな思いでBの話を聞いているのか(彼の願いは何か) | T.発問する | | ・今持っているお金でできるだけ質の良い米をたくさん手に入れたいな　等 | |
| | <どうなると彼はうれしいか> | P.答える | | | |
| | ・市場にいる，売りたい人・買いたい人に共通する願いは何か | T.発問する<br>P.答える | | 1モノをお金に換えたい，2モノを少しでも高く売りたい<br>3持っているお金でなるべく多くのものを手に入れたい | |
| | ○ここまでで何がわかったか | T.発問する<br>P.答える | | 1交換手段としての貨幣，2蓄積の対象としての貨幣<br>3価値尺度としての貨幣→社会における貨幣の働き | |
| (2)<br>(20分) | ○鎌倉時代以前の社会の流通について復習しよう | T.説明する | ③ | | プリント配布 |
| | ・登場人物は誰だったか | T.発問する | | ・荘園領主，荘官，農民 | |
| | ・農民が生産するモノがどこへどのように運ばれて誰の収入になるのかを数字で考えた結果，どんなことがわかったか | T.発問する<br>P.答える | | ・農民と荘官と荘園領主の収入は，全て農民の生産物によってまかなわれていたこと | |
| | ・それぞれどんな願いを持っていたか | T.発問する<br>P.答える | | ・三者ともに　「もっとたくさん収入が欲しい」　と<br>「安全・確実に税を送り，受け取りたい」 | |
| | ・鎌倉時代以前の社会を何というか | T.発問する<br>P.考える | | ・このような願いを持っている人々が暮らしていた社会を，自然経済の社会と呼ぶ | |
| | ・なぜ自然経済の時代では，あまりお金が使われていなかったのか | T.発問する<br>P.答える | | ・必要性がど無かった，ほとんど流通していなかった<br>・日宋貿易によって貨幣がたくさん流通するようになった | |
| | ・では，なぜ鎌倉時代に入ってお金が使われるようになったのか | T.発問する<br>P.答える | | ・お金を必要とする社会<貨幣経済の社会（←→自然経済の社会）>になった | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | ○お金を必要とする経済社会<貨幣経済社会>について考えよう | | | | |
| | ・平安時代に比べ，鎌倉時代に入って市が盛んに開かれるようになったのはなぜだろう | T.発問する<br>P.答える | | ・お金が使われるようになったから，大量の生産物が集まったから，米をたくさん生産できるようになったから | |
| | ・米が市場に大量に出回るようになるのはなぜか<br>(なぜ米をたくさん生産できるようになったのか) | T.発問する<br>P.答える | | ・二毛作以外に，肥料・農具・品種の改良，牛馬耕の普及など農業技術が発達したから | |
| | ・このことを別のことばで言うとどういえるか | T.発問する | | ・第一次産業が発展し，生産性が向上した | |
| | ・市場に米や反物を持ち込んだのは誰か | T.発問する | | ・農民など | |
| | ・福岡市でモノを売った人は，手に入れたお金をどうするのだろう | T.発問する | | ・1　貯めておく，2　他の欲しいモノを市場で買う | |
| (2)<br>(20分) | ・市場では，お金で誰が何を買うか | T.発問する | | ・例：農民が，反物を買う | |
| | ・平安時代までは，米以外の生産物（鍋や刀など）は，誰がどのように生産し，流通していたか | T.発問する<br>P.答える | | ・平安時代までは，技術のある農民が農作業の合間に荘園領主の要求に応じてつくり，公事として納めていた | |
| | ・鎌倉時代に入ると，米以外の生産物は，誰がどのように生産し，流通していたか | T.発問する<br>P.答える | | ・刀だけを専門につくる刀鍛冶や，鍋や釜だけをつくる専門の鋳物師などが活躍するようになった | |
| | ・刀鍛冶や鋳物師は，なぜ専門の職人として自立できたか | T.発問する<br>P.答える | | ・いいモノをたくさん作り，市場に行って高く売れれば，たくさんのお金が手に入り，欲しいモノが何でも手に入る豊かな生活ができるようになったから。 | |
| | ・では，市では農民の他には誰が何を買うか | T.発問する | | ・織物職人や刀鍛冶や鋳物師が，今日食べる米を買う | |
| | ・このことを別のことばで言うとどういえるか | T.発問する | | ・第二次産業の社会的分業が進み，生産性が高まった | |

(第2時)

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | ○お金で欲しいものを買った人についてもう少し考えてみよう | | ④ | | |
| | ・福岡市で米や反物や鍋や刀を買った人は，それをどうするのか | T.発問する | | ・1 食べる，着る，使う　2 別のところで高く売る | |
| | ・2のような人を何というか | T.発問する | | ・商人 | |
| | ・明日食べる米を，商人はどうやって手に入れるか | T.発問する | | ・お金を米と交換する | |
| | ・そのお金はどうやって手に入れるか（商人はどのようにして儲けるのか） | T.発問する<br>P.答える | | ・価格が安い市場でモノを仕入れて，価格が高い市場でそれを売り，差額のお金を手にする | |
| | ・価格のきまり方を考えよう | T.発問する | | ・物価は流通するモノの量に対する貨幣の量で決まる | |
| | ・「流通するモノの量>流通するお金の量」の場合と，「流通するモノの量<流通するお金の量」の場合，価格はどちらが高くなるか | T.発問する<br>P.考える | | ・後者である | |
| | ・では，地方の福岡市を価格が安い市場とすれば，どこに持って行けば高く売れるのだろうか | T.発問する<br>P.答える | | ・たくさんの人が集まり，買う人の多くが，お金をたくさん持っている市場（京都<平安京>） | 自分が商人になったつもりで考える |
| | ・以上のことから，鎌倉時代以前に比べて，商業がどのように発達したのかをまとめよう | T.発問する<br>P.答える | | ・サービスを提供して生計を立てる専門の人間が現れた。 | |
| | ・商人が提供するサービスとは何か | T.発問する | | ・客が求めているいい品をより安く提供する | |
| (3)<br>(20分) | ・では，福岡市から京都まで誰がどうやって運んだか。「庭訓往来」と「福岡市」の資料を見ましょう | T.発問する<br>P.考える | ①<br>② | ・車借，馬借，船頭など | |
| | ・商人の時と同じように考えて，鎌倉時代以前に比べて，運送業がどのように発達したのかをまとめよう | T.発問する<br>P.考える | | ・専門の運送業者が，陸上・海上でモノを運び，その手数料で生計を立てる専門の人間が現れ，活躍した | 自分が運送業者になったつもりで考える |
| | ・運送業者が提供するサービスとは何か | T.発問する | | ・早く，安全に，確実にモノを運ぶ | |
| | ・商人や運送業者などが活動の中心とした場所はどこか | T.発問する | | ・近畿地方の港，都に近い都市　など | |
| | ・サービス業が発達すると，人々の暮らしはどうなったか | T.発問する | | ・便利になった | |
| | ・荘園の現地管理者である地頭はこれまで，運送業者を使って年貢の現物を荘園領主に送らなくなっていった。それはなぜか | T.発問する<br>P.答える | | ・荘園領主に納めるべき年貢を横取りし始めたから<br>・年貢の代わりにお金を送るようになったから | 鎌倉時代以前の社会を思い出す |
| | ・現物年貢の代わりにお金を送ることを何というか | T.発問する | | ・代銭納 | |
| | ・なぜお金で納めるのだろう | T.発問する | | ・盗賊に襲われにくいから　便利だから　儲かるから　等 | |
| | ・代銭納が発達し，地頭は年貢を全て地方の市場で売りさばき，一 | T.発問する | | ・市場でモノの値段が高い時に売ることで，たくさんのお | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 定額のお金を荘園領主に送るようになったがそれはなぜか | P. 答える | | 金を手にすることができるから | |
| | ・しかし，1枚1文4.1g の政和通宝(1枚約50円)を200万円分荘園領主に送れば，4万枚のお金を運ぶことになる。これは何kgになるか | T. 発問する<br>P. 答える | | ・160kg | |
| | ・重いお金を運ぶリスクを減らすために生まれた仕事は何か | T. 発問する | | ・替銭業 | |
| | ・替銭業のシステムを知ろう | T. 発問する<br>P. 考える<br>P. 答える | | ・替銭屋は，地方の市場に替銭屋A，京都の市場に替銭屋Bを開業し，提携する→地頭は，Aのところに行って割符を発行してもらい，荘園領主に送る→割符を受け取った荘園領主は，Bに行ってお金を払い戻してもらう→替銭屋は，AかBのどちらかで手数料を受け取り，そのお金で明日のお米を買って食べて生きてゆく | |
| | ・荘園領主も，地頭も，なぜ替銭業を利用するようになるのか | T. 発問する<br>P. 考える<br>P. 答える | | ・荘園領主も地頭も，盗賊に襲われて収入ゼロより，少々高くても（手数料がかかっても）確実にお金を手に入れたりお金を荘園領主のもとに送れる方がいい | 荘園領主・地頭のそれぞれの立場で考える |
| | ・替銭屋は第何次産業にあたるか | T. 発問する | | ・第三次産業，サービス業 | |
| 終結<br>(20分) | ・A～Gは，何と呼ばれる人々だろう | T. 発問する<br>P. 答える | ⑤ | ・A=地頭　B=鋳物師　C=刀鍛冶　D=商人　E=運送業者　F=荘園領主　G=替銭屋 | |
| | ・貨幣経済の時代では，みんな欲しいものを手に入れることができたのだろうか。ここまで勉強してきたことを，収入の観点から，図を見ながら確認してみよう | T. 発問する<br>P. 考える | | 1農民の収入は，自分が生産した米，2地頭の収入は，農民が生産した米（自分の田からの収入も含む）と地方の市場で価格操作をして得た貨幣，3荘園領主の収入は，農民が生産した米などが売られた代金としての貨幣，4手工業者の収入は，自分が生産した手工業品を売って得た貨幣，5商人の収入は，京都の市場でモノを買った人が払った貨幣，6運送業者の収入は，運送を依頼した人々が払った手数料としての貨幣，7替銭屋の収入は，振り替えを依頼した人々が払った手数料としての貨幣 | |
| | ・なぜ，中世にはいって，商業・運送業などの第三次産業に属するサービス業が発達したのだろうか | T. 発問する<br>P. 答える | ⑤ | ・第一次・第二次産業が発達し，余剰生産物が市場に放出され，お金を媒介として広く流通するようになったから | プリントに書き込みながら考える |
| | ・貨幣経済の時代とは，自然経済の時代と比較して，どのような時代であったといえるか | T. 発問する<br>P. 考える<br>P. 答える | | ・人々の暮らしの中での願いの実現と悩みの解決というの強いニーズに応える形で新たな生産と流通の枠組みが成立した時代であった | |
| | ・なぜ自然経済から貨幣経済に社会のシステムが変化したのか<br>(時間があれば，貨幣経済の時代は，その後どうなったかなどについて触れる) | T. 発問する<br>P. 答える | | ・その変化は，銭の輸入と普及による生産と流通の活発化によってもたらされた | 本時を復習 |

資料①「庭訓往来」，資料②「一遍上人絵伝」，資料③「政和通宝」，資料④学習プリント「古代の生産と流通」，資料⑤学習プリント「中世の生産と流通」

## V．おわりに

自然経済社会から貨幣経済社会への移行を，生産・分配・消費の観点から，モノと貨幣を扱う人間の営みとして理解する授業試案を提示したが，本授業案は，現代の複雑化した経済社会を理解させるための授業ではない。

・経済社会の時代区分については，さまざまな論があり，中学校社会科歴史的分野の授業において，より妥当性があり，利用可能なものにしていくこと

・貨幣経済社会以降の授業案については，これからの研究の継続的課題であること

などがこれからの課題である。

たくさんのご批判をいただき，ご指導を仰ぎながら，今後の研究の糧としてゆきたいと考える。

参考文献

村井章介「中世日本の内と外」筑摩書房　1999
小塩隆士「高校生のための経済学入門」ちくま新書　2002
永原慶二「荘園」　吉川弘文館　1998
間宮陽介「市場社会の思想史」－「自由」をどう解釈するか　中公新書　1999
宮本常一「絵巻物に見る日本庶民生活誌」中公新書1993
阿部謹也他著「中世の風景(上)(下)」中公新書　1981